

## 自転車繋ぐ、みなみ北海道いにしへの道

### 歴史・文化を活かした南北海道サイクルツーリズム推進協議会

#### 【地域と地域を繋げるサイクルツーリズム】

全国的にも有名な観光地である函館市には、毎年国内外から500万人以上、コロナ禍でも300万人以上の観光客が訪れています。その最大の魅力は、北海道でも随一の長い歴史が織りなす文化遺産の数々にあります。また函館市のみならず渡島・檜山を含む道南エリア全域に個性豊かな市町村があり、見どころに溢れています。しかしながら、交通アクセスの難しさから函館市以外の市町村まで足を延ばす観光客は限られ、道南エリアの魅力が伝えきれていないという大きな課題があります。このため函館市内に滞在し、道南を通過する観光客が多いというのが現状です。

一方、サイクリストにとっての道南は、山あり海あり、と変化に富んだ景観を楽しめ、街と街の距離が程よいため休憩ポイントに困らず、また道内では自転車シーズンが最も長く、最高のサイクリング環境でもあります。「道南のもつ歴史・文化・自然・景観の素晴らしさを、サイクリングを通じて多くの人に伝えたい」。そんな思いから、2018年に歴史・文化を活かした南北海道サイクルツーリズム推進協議会（道南サイクルツーリズム推進協議会にR4.12.9改名）が発足しました。

#### 【地域人材の育成】

当協議会における活動の柱の一つとして、「サイクリングガイドの養成」があります。自転車は楽しく健康的である反面、交通ルールやとっさの判断を間違えば大きな危険に繋がりがかねないスポーツでもあります。せっかくのサイクリング観光を最高の思い出にするためには、どこを走って何を見るかと同じくらい、いかに安全に配慮して危険を未然に防ぐかが重要です。

自転車に乗れて道を知っていれば、誰でもサイクリングガイドができるわけではありません。ガイドは、参加者の走力や技量を瞬時に把握し、常に全体を見渡して適切なペースを維持しつつ、参加者を楽しませながらも適度な緊張感と集中を保たせることができなければなりません。そして万が一のトラブル時には冷静

かつ適切に対応できる能力も不可欠です。

そんな高いプロ意識とスキルをもったガイドを養成するためにも、然るべき機関が公認する有資格ガイドの養成が必要です。当協議会では、一般社団法人日本サイクルツーリズム推進協会（JCTA）から講師を招き、年1回サイクリングガイド講習を開催しています。

道南と自転車をこよなく愛する地元のサイクリストから希望者を集め、令和4年までに計19名の公認サイクリングガイドが誕生しました。当協議会主催の道南サイクリングツアーや、外部団体等からのガイド依頼などにおいて、道南の道を走り尽くした地元サイクルガイドならではの知識と経験を活かし、道南の魅力発信とサイクルツーリズム発展のために、楽しみながら活動しています。



サイクリングガイド講習の様子

#### 【地域資源の発掘】

また重要な活動には、地域の魅力的な観光資源を発掘するためのルート試走があります。何十回、何百回とそのルートを走ったことがあるサイクリストでも、自転車で走ること自体が目的なのか、自転車で観光することが目的なのか、その目的の違いによって視点は全く変わってきます。普段、あまり気に留めず通過していた場所に、実はものすごく歴史を秘めた価値ある観光スポットが隠れていたということもあります。ルート試走は一人で行わず、協議会メンバーの数名が必ず参加し、複数の視点と様々な角度からルートを検証します。

ここで大切なのは、「自転車で実走すること」です。例え、車でルートやポイントを確認しても、自転車から見つけやすいか、自転車は止まりやすいかなど、自転車目線での確認はできません。また観光スポットだけではなく、休憩ポイントの利便性や、ポイント間の距離感、ルートの難易度や疲労度、路面状況の安全性など、実際に走行することで気付くことが多数あります。

こうして限られた自転車シーズンの中で何度も試走を繰り返しながら、当協議会では、これまでに「みなみ北海道いにしへの道コース」、「駒ヶ岳満喫コース」、「恵山・縄文文化コース」など、6ルートを設定しました。作成したルートマップはホームページやパンフレットで発信し、サイクリング観光誘致に向けて取り組んでいます。



著名な観光地も自転車で巡ること  
で大きな発見が



休憩ポイントでの自転車設備チェ  
ック

### 【現状と今後の展望】

道南におけるサイクルツーリズム推進の流れは、着実に浸透しつつある一方、課題も多いというのが現状です。道南エリア全体を含めた広域連携実現のためには、各自治体との協力はもちろんのこと、地域に暮らす方々にもどのようなメリットがあるのかを理解していただくことが重要です。

北海道の道路事情は、まだ自転車活用推進に適しているとは言えず、路面状況の改善や路肩の拡張など、走行環境整備のためには行政の力なしには成し得ません。公共交通機関との連携も大きな目標の一つです。バスや電車などに自転車をそのまま積み込んで移動できれば、サイクルツーリズムの活動範囲と可能性は一気に広がります。



ローカル鉄道の協力による自転車  
積載実証実験



サイクルバスへの積載

北海道の魅力は今や世界中に認知され、毎年多くのインバウンド観光客が雄大な自然とアクティビティ、豊かな食、アイヌ文化や縄文遺跡群といった独自の文化に魅了され、北海道を訪れています。2023年9月には、世界最大のアドベンチャートラベルイベントである「アドベンチャートラベル・ワールドサミット（ATWS）」の北海道開催が決定しており、道南でもポスト・サミット・アドベンチャーの一部としてサイクリングツアーが予定されています。

これに先駆け、道内各地でサイクルツーリズム推進に取り組む、様々な団体が設定したサイクリングルート「北海道サイクリングルート」として、現在8つのルートが認定され、それぞれが地域の魅力と特色を存分に活かして情報を発信する中、当協議会では渡島半島の東と西を8の字で結ぶ道南ルートを、新たな北海道サイクリングルートとして申請すべく、邁進しています。

SDGsの実現や脱炭素に向けた手段の一つとして、世界中で自転車の活用が注目を浴びる中でのサイクルツーリズム推進は当然の流れとも言えますが、それ以前に私達の原点である「大好きな道南の魅力を、大好きな自転車で伝えたい」という想いを大切に、これからも楽しくペダルを回し続けていきたいと思えます。



当協議会主催サイクリングツアー